

土の中で根をはって のびる準備をする植物のように

朝の運動場では、固く凍り付いた土の上で8の字跳びの練習に燃える子どもたちの元気な掛け声が聞こえています。昼休みには、少し温かい日差しも出てサッカーをして走り回る子どもたち、森で基地をつくって遊ぶ子どもたち、縄跳びの記録を伸ばそうと練習する子どもたちで運動場はいっぱいになっています。

児童会のメンバーとボランティアの子どもたちは、やりがいを感じながら、うすぐまってもくもくと石拾いをしています。休み時間は寒さも吹き飛ばす楽しい時間です。

11月の下旬に、高学年が咲き終わった花の片付けをし、低学年がチューリップと水仙の球根を、中学年がパンジーを、花壇に植えてくれました。土を耕していると、深いところに根と頭が小さくできあがったつくしがいくつも埋まっていました。

こんな所につくしが生えては球根の邪魔になると思い、とれるだけ取りましたが、つくしの頭や袴がしっかりできているのには驚きました。

つくしは春になったらここに芽を出そうと形を作って、後は伸びるだけというところまで準備して寒さをやり過ごしているようでした。だから、春一番に力強い芽を出すことができるのでしょう。

3学期は一つ上の学年へ進級する前の準備期間であり、0学期であるといわれます。来年は何をしようか、何を頑張ろうかと、考えイメージして準備する時期なのです。

冬休みの親子で過ごせる貴重なひとときに、ぜひお子さんと一緒に「あなたのこんないいところを伸ばすといいだろう。」「わたしのこんなよくない習慣はやっぱり摘んでおくのがいいのでは？」などと会話で心を耕し、環境を整理してみてください。

そして、目標となる種や球根を植えられたら、あとは子どもが自分で根を伸ばすという見えないところでの努力を応援するしかありません。成長を急がせて、まだ芽の小さいうちに化学肥料をどっさり与えてパンジーの苗をダメにしてしまった私は、「じっと見守り、励ましながら楽しみにして待つ」ことを肝に銘じました。

保護者や地域の皆様、よい年をお迎えください。

